

調査研究彙報

建造物研究室

神戸市文化環境保存地区内歴史的建造物の保存修理 二ヶ年にわたり太山寺羅漢堂の修理指導をおこなった。工事中の調査で、建立年代は17世紀末頃に比定できること、もとは正面3間側面5間入母屋造妻入りの独立堂であったことなどが判明した。修理報告書既刊。(細見)

歴史研究室

東大寺文書調査 文化庁委嘱の東大寺文書調査。1974年から82年までに調査したものの若干の補遺と、重要文化財指定にともなう確認調査(文化庁美術工芸課と合同)。前年度につづき『東大寺文書目録』第六巻(編年索引と従来の指定品の目録)を公刊した。(鬼頭)

興福寺文書調査 昨年度につづき69・70・71箱の唯識・因明関係の論義草の調書を作成。69箱等に含まれる論義草の一部の紙背文書については、その一端を本年報に紹介。また第4箱にさかのぼって目録公刊用の原稿作成を進め、第22箱まで終了した。5月、9月、12月。(鬼頭)

薬師寺文書調査 東京大学史料編纂所との第4回共同調査。前年に引きつづき、第13箱以下の調書作成と、第11箱以下の写真撮影をおこなった。7月。(鬼頭)

西大寺文書調査 前年に引きつづき、第83箱より第89箱までの調書を作成した。そのほか、称徳天皇御山荘推定地の発掘調査との関連で、西大寺所蔵の西大寺絵図を調査した。(鬼頭)

その他の文書調査 石山寺(7月・8月)、醍醐寺(8月)、東京大学史料編纂所島津家文書(1月)の調査をおこなった。(鬼頭)

平城宮跡発掘調査部

篠山城跡二の丸発掘調査 本年で3年目にあたり、大書院の西の式台から台所、局、奥向き御殿部分の調査をおこなった。礎石や東石はほとんど失われているが、岩盤をほり込んだ多数の小穴、建物周囲の溝、堀、台所のかまど、奥向き御殿の便所の跡などがみつき、古図と併せてこの内御殿の配置と変遷をかなり明らかにできると思われる。(岡田・西村)

彦根城本丸御殿跡発掘調査 彦根市は特別史跡彦根城跡の本丸御殿跡に旧御殿の復原整備および市立博物館建設を計画し、事前の発掘調査にあたって当研究所が指導をおこなった。本年度は遺存状況確認のためのトレンチ調査で、59年度に全面調査を予定している。(宮本)

新潟県横滝山廃寺の発掘 横滝山の台地上ほぼ中央で建物の基壇を発見し、この基壇が木造基壇外装をもつことがわかった。検出したのは基壇のほぼ西半分と思われるが、削平のため基壇規模の確認までには至らなかった。磚仏一点出土。(上野)

丹波国分寺跡の発掘 史跡丹波国分寺の整備にともなう確認調査。本年度は中門・回廊推定地の調査をおこない、塔心礎を通る東西線の南38mと50mの位置で2条の東西溝を検出。中門基壇とその南北の雨落溝と推定できる。この結果、昨年検出した基壇土の落ちは回廊基壇南縁にあたることが明らかとなった。7月～9月。(西)

甲斐寺本廃寺の発掘（第2次） 南門・中門推定地域と中心伽藍北方地域の調査をおこない、南門跡と中門跡の一部およびこれらをつなぐ参道を検出した。北方においては食堂・僧房などの遺構は検出できなかった。（森・清水）

神野向遺跡の発掘 常陸国鹿島郡郡衙推定地の調査。政庁の検出を目的に倉院の西南方約1500 m²を発掘した。倉院区画大溝に近接した位置で、コ字状に配置された掘立柱建物や井戸、その東南で一列に並ぶ雑舎群などを検出。政庁であるかは未確定。10月～1月。（毛利光・松村）

埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

森将軍塚古墳 今年度は後円部の発掘調査が実施され、調査・整備両面の指導をおこなった。調査面では、裾部において貼石帯とも呼べる遺構が検出され、また組合式箱形石棺など小型埋葬施設が予想以上に検出されたことや、後円部の主体部下層で内部石積がみつかったりしたため、墳丘調査は次年度に延長せざるをえなくなった。整備面では、二段墓壙をもつ竪穴式石室を16年ぶりに現出させ、型取りをした上でレプリカを作製した。当初何らかの低く平坦な覆いをつけて石室自体を公開する案も検討したが、松代地震クラスの災害のことも考慮し、埋め戻して保存することになった。（安原・木下）

松本城二の丸跡 昨年度末に長年調査団長として活躍された原嘉藤氏が急逝され、新体制のもとで濠、土坡の規模確認の発掘が続行された。一方整備面では、実施設計がまとまり、御殿跡の部屋割復原整備が実施された。今年度ではほぼ完了し、他に土蔵の修理と便所の新設も始まった。残るのは濠の復原と築地塀跡の復原であり、そのための発掘調査、整備実施設計は次年度も継続する。特に明治の土橋撤去後の濠水位の調整が問題となっている。（安原・宮本）

小田原城の定常波探査 小田原城の城米曲輪整備にともなう調査。曲輪築成前の旧地形をさぐるのを目的に探査。100 m四方を10 m間隔で測定。曲輪中央部が低く、湿地状であったこと、二条の小沢状の凹みが南西へ延びることを推定した。5月。（西村・山中・高瀬）

大型出土木材の保存研究 山田寺東回廊の建築部材の発見を機会に、大型の出土木材について、構築部材としての必要な強度を与え、過酷な展示・保管条件にも耐え得る保存法の開発研究を開始した。本研究のために大型の真空凍結乾燥機を導入。仕様は、試料室の大きさ、直径1.5 m、長さ8 m、試料凍結温度、最低-40°C。到達真空度0.1 Torr。京都大学と共同。（沢田）

沖縄県与那国トウグル浜遺跡出土石器類の調査 本島北岸砂丘地に営まれた土器をともなわない八重山第一期の貝塚。空港拡張工事の事前調査。141点の石器類は、製作・使用・再利用状況から石器をめぐる生活の豊富な内容を示し、貴重である。9月。（松沢）

「近畿地方出土木器の集成」研究会 1983年2月9日、近畿各県の埋蔵文化財発掘技術者に呼びかけて、表記の研究会を発足した。その後、3月22日に第2回（於東大阪市立郷土博物館）、5月25日に第3回（於高槻市埋蔵文化財センター）、7月5日・11月28日に第4・5回（於奈良国立文化財研究所）で会合をもった現在、1984年度の刊行を目ざし、『木器集成図録（近畿・歴史時代編）』の編集を進めているところである。（上原）